

令和2年度第1回伊丹市環境審議会議事録

日時：令和2年7月8日（水）14時00分～16時00分

場所：伊丹市役所議会棟3階 議員総会室

・出席状況 14名中10名出席

出席者 笠原会長、塚口委員、中野委員、吉村委員、杉本委員、服部委員、長谷川委員、木下委員
辻野委員、高見委員

欠席者 菊井副会長、宮川委員、植木委員、矢野委員

・傍聴者 なし

・配布資料

資料：①伊丹市環境審議会名簿（次第裏面）

②環境の現況と課題

③第2次から第3次環境基本計画への施策体系の変更点

④第3次環境基本計画 施策体系・指標関係図（案）

⑤第3次環境基本計画 施策体系（案）

⑥第3次環境基本計画 事業・活動内容（案）

手元資料： 伊丹市環境基本計画（第2次）

伊丹市環境基本計画（第2次）中間改訂版

1. 開会（14：00）

・出席状況の確認

事務局より、伊丹市環境審議会等に関する条例に基づき、本審議会が成立していることを報告

・委員の変更の報告

・委員再任の確認

全委員了承

・署名委員の指名

長谷川委員、高見委員を選任

2. 審議事項

（1）伊丹市環境基本計画（第3次）の策定について

[伊丹市環境基本計画（第3次）の策定について説明。（資料②～⑤）]

○会長

事務局から、環境の現況と課題、第3次環境基本計画の施策体系（案）の説明があった。資料②の13ページ目の社会情勢の変化や伊丹市の環境課題を勘案して、資料③のように、第2次計画から第3次環境基本計画（案）に改定したいとのことである。

○委員

1つ目の意見として、資料②の2ページ目の「（5）持続可能性を支える技術の開発・普及」でICTなどの活用を強調しているが、伊丹市の環境施策にはICT技術そのものはそれほど書かれていない。むしろ、新型コロナウイルスの影響で生活様式が大きく転換しており、「社会情勢の変化」という項目でもあるので、「新しいライフスタイル」とすれば、在宅ワークが増えていることや三密を避けることなどを全部入れられ

て、その中に ICT のことも含まれるのではないか。

2つ目の意見として、資料②の1ページ目の「社会情勢の変化」でSDGsが非常に強調されている割には、資料③などで、SDGsの17の目標との紐づけなどが全くなされていない。他の自治体のSDGsを強調されているような環境計画では、SDGsの17の目標と計画の各目標との関係を紐づけされていることが多い。SDGsを強調するのであれば、伊丹市の施策の方向性あるいは基本目標と、SDGsの17の目標との紐づけをした方がよいと思う。

3つ目の意見として、資料②の5ページ目の循環型社会については「食品ロスの削減」が大きな柱として掲げているが、冒頭の社会情勢の変化を踏まえて考えるのであれば、「プラスチックごみのリデュース（発生抑制）」を掲げるべきである。市民にとっては、「レジ袋の有料化」や関西広域連合でも始まっている「マイボトル運動」など日常生活の中で大きな変化があり、プラスチックごみの発生抑制を進めようとしているにもかかわらず、伊丹市の目標として「食品ロスの削減」だけが掲げられ、「プラスチックごみの発生抑制」が入っていないのは不自然だと思う。現に社会の変化として、新型コロナウイルスの影響で在宅者が増え、容器包装ごみが非常に増えている。また、フェイスシールドや間仕切りのプラスチック類は焼却せざるを得ない。一方で、安全なプラスチックを何とかリデュースしなければプラスチックごみが大量に増えてしまう。廃プラスチックを減らすというよりは、プラスチックごみそのものを生活の中からできるだけ発生しないようにしていくことを目標として掲げないと、社会情勢の変化と環境に及ぼす影響との関係が分離しているように感じる。循環型社会の目標には「プラスチックごみのリデュース」をぜひ入れていただきたい。

○事務局

1つ目の意見のICT技術については、新型コロナウイルスの影響を受け、環境配慮という点でどのような技術が考えられるかを考えた時に、本市では新庁舎の建設が進んでおり、新庁舎の建設と合わせて働き方を見直していくという観点から、ICT技術を取り入れてテレワークなどを検討していることもあったため記載した。この項目については、多様化しているライフスタイルに対して、いかに環境配慮を考えて対応するかという視点で見直し、内容を検討させていただきたい。

2つ目の意見のSDGsの17の目標については、第3次環境基本計画との紐づけを検討しているが、素案の審議の段階で、ご審議いただこうと考えていたため、今回の資料ではお示しできておらず、説明ができていなかった。この件については、次回の環境審議会の際に説明し、ご審議いただきたい。

3つ目の意見のプラスチックごみ自体の発生抑制を図ることについては、基本目標には掲げていないが、施策の方向性の中の事業で、「廃プラスチックの削減」として掲げていた。本市でできることを考えた場合、「マイバッグ」や「マイボトル」を普及・啓発し、プラスチックごみが発生しないようにする、あるいは簡易包装を推進するという取り組みを行うことから始まると考えていたが、事務局において今一度整理を行い、素案の段階で説明できればと思う。

○会長

第3次環境基本計画を策定するにあたり、社会情勢の変化や伊丹市の環境課題を勘案して、第2次計画から第3次環境基本計画(案)を資料③のように変更したいという提案である。提案された内容について承認いただければ、不足があるかもしれない個々の内容について議論を進めていきたい。資料③の施策体系(案)について承認いただけるかを議論いただきたい。

○委員

資料③において、第2次計画の「⑫交通ネットワークの充実及び道路の整備」が、第3次環境基本計画(案)の「①気候変動への緩和策」と「⑨安全で快適な道路空間の整備」の2つに分かれて記載されている。「気候変動への緩和策」として考えている交通行動と「安全で快適な道路空間の整備」として考えている交通行動は分けて考えるべきである。一方は非常に大きな視点であるし、もう一方は個別の視点である。また、資

料②の10ページでは、交通の中でも自転車の問題を記載している。現時点では、自転車の走行空間のネットワークをどうしていくか、ハード面でのネットワークをいかに活用していくかというところに議論が移っていると思う。これらを考えると、資料③のように交通を振り分ける場合、交通の中身をきちんと整理した上で、こういう形に持って行っていただければ良いのではないかと思う。

○事務局

第2次計画の「⑫交通ネットワークの充実及び道路の整備」の中での、公共交通機関の利用促進を本市で運行している市営バスの利用促進を捉え、気候変動への緩和策として、温室効果ガスの排出削減対策に位置付け、整理できればと考えている。第3次環境基本計画の気候変動の項目には市営バスの利用促進について振り分け、その他の取り組みは、本市は平坦でコンパクトな市域を活かした自転車利用の促進をしていることもあるので、道路の整備も含め、自転車・歩行者の安全快適な道路空間の整備として整理ができればと考えている。

○委員

もう1点気になる点として、資料②の2ページに「テレワークの推奨」とある。テレワークについては、今後、現状より増えることは予想できるが、完全にテレワークになることは考えにくい。テレワークがどのように進むのか、あるいは市としてどのように進めるのか、状況によって交通事情が変わってくる。場合によってはテレワークにより、市営バスの利用者が減少するかもしれない。「交通」と気候変動などを関連付けて考える時には、ライフスタイルがどう変わるのかも含め、もう少し幅広く捉えて、交通は二次的な派生行為で、本質的には我々の行動が変われば交通事情も大きく変わることを念頭に置いて記述してもらえればと思う。

○会長

資料の捉え方として、資料②の1ページから2ページの環境の現況と課題について、先程の新型コロナウイルスの影響を第3次環境基本計画に反映するかどうかは、場合によっては、第3次環境基本計画にも盛り込んでいかなければならない部分もあるかもしれないが、ここに書いているからといって、あくまでもそれは社会情勢の変化を示しているものであり、全ての項目について第3次環境基本計画に反映するものでもないと思われる。

○会長

先程のプラスチックごみの発生抑制については、第2次計画では全く触れられていないが、第3次環境基本計画（案）の中で「③廃棄物の発生抑制・再資源化・適正処理の推進」に該当してくることで、社会情勢から見てもしっかりと盛り込んでいかなければならないと思う。第2次計画の施策にはないが、社会情勢の変化によって第3次環境基本計画（案）に盛り込んでいかなければならない要素は他にないかを議論し、事務局案に盛り込んでもらいたい。

○委員

第2次計画と根本的に考え方が変わり、第3次環境基本計画（案）にどのように盛り込んでいくかを考えていくべきこととしては、先程のプラスチックごみの件だと思う。第2次計画の計画期間には、排出されたプラスチックを焼却せずどのようにリサイクルするかが目標であったが、現在では、2R、発生抑制に重点を置くべきである。社会の変化に合わせて、廃プラスチックの削減ではなく、プラスチックごみの発生抑制、3Rの中でもリデュースの強調を方針として掲げるべきである。

○会長

おっしゃる通りだと思う。第3次環境基本計画（案）で検討していくことである。

[第3次環境基本計画 事業・活動内容(案)(資料⑥)]

基本目標 気候変動に対応したまち(P1-3)について説明。]

○会長

気候変動の影響として、最近では2年前の西日本豪雨や台風19号など、特に豪雨が各地で被害をもたらしている。浸水被害対策率が成果指標にあるが、伊丹市でも浸水の危険性はあるのか。平坦な地形のため、土砂災害はあまりないと思われるが、猪名川などの河川の浸水対策は講じられているのか。

○事務局

伊丹市では2014年(平成26年)の9月の大雨で浸水被害が出て以降は、大きな浸水被害は出ていないが、その際に雨水整備計画を見直し、市域全体に対して浸水被害の解消を図るため、雨水整備を進めている。浸水は市民の安心安全、財産に被害が及ぶということもあり、特に適応策の中では注力してやっていく必要がある。成果指標としても浸水対策達成率を掲げて、適応策を進めていきたい。

○事務局

補足すると、伊丹市は平成6年にかなりの地域が浸水したため、金岡の雨水貯留管を作った。この際、貯留した水をどこに流すのかということが問題となる。河川に流すと下流が浸水してしまうため、河川流域の周辺自治体で相談して国に計画を提出している経緯があり、伊丹市だけ大きくすることはできず、一旦貯留し、雨が止んでから放流するという方法しかない。現在、伊丹小学校で、学校に穴を掘って雨を一時的に貯留する校庭貯留を進めているが、そのような対策を含めた浸水対策も必要になっていく。

○会長

気候変動は今後ますます激しくなることに伴い、その危険性も高まってくると考えられるので、対応策を講じていかなければいけないと思う。

[第3次環境基本計画 事業・活動内容(案)(資料⑥)]

基本目標 資源が循環する環境に配慮したまち(P4-7)について説明。]

○委員

先程委員もおっしゃっていたが、最近のリデュースが強調されている。例えば西宮市の計画では、3R自体は書いており、リサイクルをやめるわけではないが、強調すべきはリデュースと優先順位を付けて、2Rを進めることが掲げられている。リデュースをもっと強調して、方向性は打ち出せないか。もう少しリデュースを強調するような方向性で書かれてはどうか。

○会長

参考に京都でも、最近では2Rが使われるようになってきている。一番の基本はリデュースになるだろうが、最終的には再生利用もエネルギー削減、地球温暖化対策になると思うので、削るのもどうかと思う。そのあたりを意味のある表現を含ませて市民の皆さんに伝えることが大切である。

食品ロスについても、非常に重要な問題で、食品が使われずそのまま処分されていくことが問題になっている。食品を作るのにエネルギーとお金をかけ、また廃棄するのもエネルギーとお金をかけるという二重の負の負担をしている。伊丹市ではこのような施策を行っている、目に見える形で取り組んでもらえると素晴らしい。

[第3次環境基本計画 事業・活動内容(案)(資料⑥)]

基本目標 自然環境と共生し生物多様性が保全されるまち(P8-10)について説明。]

○委員

資料②の8ページ目で「伊丹らしいみどり環境」に非常に興味を持っていたが、「伊丹らしいみどり環境」

とは、具体的には資料⑥に示されているようなことを指しているのか。もっと独特なものがあるのではないのか。

○委員

伊丹らしい自然とは、「猪名の笹原」が挙げられる。「有馬山 猪名の笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはする」と百人一首にも詠まれており、猪名野にある笹原なので、伊丹にしかないものである。本日午前中のみどり環境部会でも、生物多様性の中で、伊丹らしい自然として猪名の笹原を再生したことなどをもう少し強調すると伊丹市のシンボルになるのではないかという話が出ていた。

○委員

もう1点、先程の雨水については貯留が基本とのことであったが、透水性舗装とは地下へ流す方式か。舗装やコンクリートは、地下に浸透し下水に流れるものではないのか。

○事務局

透水性舗装というのは、あくまでも雨が降った際にコンクリートの下に雨を溜めるだけである。下水に流れるのではなく、一部は側溝に出て水路に流れる場合もあるが、地下浸透させて本来公共下水道管に入る水の量を減らすものである。

○会長

ここまでに、気候変動、循環型社会、自然共生・生物多様性の3つの項目について、具体的な事業（案）の説明があった。次回は残り2つの項目について詳しい説明があると思うが、事務局から提案された資料③の第3次環境基本計画（案）で進めることを承認いただけるか。

○委員

資料⑥の7ページ目に「食品ロスの削減の推進」があるが、第3次環境基本計画で強調しているにもかかわらず、取り組みには家庭系しか見えないように見える。その前の5ページの「廃棄物の発生抑制・再資源化・適正処理の推進」では、「事業者への3R推進」など事業者も対象としているのに、なぜ「食品ロスの削減」と大きな柱を立てているにもかかわらず、事業者を対象とした活動がないのか。コンビニの恵方巻の大量廃棄や作りすぎ、飲食店で大量に食品を捨てていることなど、伊丹市だけの問題ではなく、社会では大きな問題になっている。家庭系だけが問題になり、事業者の食品ロス削減に対するアプローチが見えないというのは変だと思う。

○会長

実は私も家庭系だけに見えることに疑問を持っていた。

○事務局

事業者の食品ロスについては、発生量自体を把握しきれていないこともあり、まずは家庭での食品ロスから着手していくことを挙げている。

事業1の活動「1.食品ロス削減に向けた取組を啓発します。」の中には、他市でも取り組まれている「小盛」のお願いや、できるかどうかかわからないが「持ち帰り」など、事業者に食品ロスの削減の啓発は考えている。ただ施策を作成した中では、事業者については啓発しかできていないため、主としては家庭系を掲げている。

○委員

「2.フードドライブを実施します。」と書いているが、フードドライブを実施するのか。

○事務局

フードドライブについては、本市でもここ2年程実施しており、継続して実施していこうと思っている。

○委員

「フードドライブ」が何のことかわからない人が多いように思われる。注釈を入れる等、もう少しわかり

やすく工夫した方が良いと思う。

○委員

フードドライブとは何か。

○委員

家庭において貰い物などで食べられるのにストックしているものを寄付する、持ってきてもらって集め、子ども食堂などに寄付する、食べられるものを誰かに寄付するということをフードドライブという。資料の下の方にフードドライブの活動について示しているが、皆さんがわかるように記載したほうがよいと思う。

○会長

日本では、食品衛生法など法律が問題になる。ホテルなどのパーティーなど余った料理も、アメリカなどでは持ち帰ることができるが、日本では法律で持ち帰りできない。そういう制約もあり、食品ロスは大量に発生している。

今日も沢山ご意見をいただいたが、本日、事務局の方から提案された第3次環境基本計画（案）に沿って進めさせていただく。今後さらに詳細な計画案が出てきて、最終的に基本計画としてまとまっていく手順で進めていきたいと思う。

3. その他

- ・次回の開催は、8月下旬を予定している。

4. 閉会（16:00）

以上